千瓢

The Senpyo

富山県立大学同窓会機関誌
第３号

発行日．2008 年（平成 20 年）10 月 1 日
発　行．富山県立大学同窓会 会長 荒木 甫／副会長 高田 満
編　集．千瓢編集部［編集長 池上　勁］
住　所．〒939-0398 富山県射水市黒河 富山県立大学内
電　話．0766-56-7500　FAX．0766-56-0396
メール．senpyokai@pu-toyama.ac.jp
ＵＲＬ．http://senpyokai.pu-toyama.ac.jp/

特集　学長対談

これからの大学これからの同窓会

2008 年 6 月 17 日（火）富山県立大学学長室　田中正人富山県立大学学長　荒木甫富山県立大学同窓会会長

出身は神戸

荒木　きょうはお忙しい中を対談のために時間をおとりいただきましてありがとうございます。まずプライベートなことからお聞きします。お生まれはどこでしょうか。

田中　私は昭和１７年生まれです。父は昭和１５年に大学を卒業して、戦時のことでもあり職業軍人となる途を選択して、飛行機の機体の金属材料を研究する技術将校となりました。戦後は父の勤めの関係で転々としましたが、小学校から高校卒業までは神戸で過ごしました。

荒木　親の背中を見てお育ちになったというか、親子二代、工学系の魂が受け継がれているのですね。

田中　そうですね。

トライボロジー

荒木　学長の専門はトライボロジーとお聞きしましたが、これはどんな分野なのかわかりやすく教えていただけないでしょうか。

田中　摩擦、潤滑、摩耗を扱う学問、技術です。日本語で摩擦工学とか潤滑工学といわれていました。当時の一般のイメージは「つなぎを着た工員さんが刷毛で機械に油を塗ってすべりをよくする」というもので、学問的なアプローチをしているとは思われなかった。1966年に、イギリスのピーター・ジョスト博士がトリボスという摩擦を意味するギリシャ語と、学問を意味するロジーをくっつけて「トライボロジー」という新語を作り、この言葉ひとつで世の中を変えたのです。ジョストレポートと呼ばれるレポートをイギリス政府に提出して、摩擦、潤滑、摩耗に関する学問と技術がなおざりにされている為に我が国は多額の経済的損失をこうむっていると訴えたのです。それではどうしたらいいかと政府から問い合わせがあり、ジョスト博士は、国立のトライボロジー研究所を設立すること、各大学にトライボロジーと名前の付く研究室を設置することを勧めたのです。そのようにした結果、トライボロジーが専門だという先生が増えました。



対談中の荒木会長（左）と田中学長

Index

題字は浦野泰子さんにたのみました。浦野さんは富山県立大谷技術短期大学の応用数学科の１期生です。

1～7　《特集》学長対談・これからの大学これからの同窓会
8　私の好きなもの
9　同窓会総会スナップ
10～11　研究室の近況案内
12～13　探しています
14～15　同窓会日誌
16　富山県立大学検定クイズ、集まってま～す
17　大学ニュース
18　声、ゴルフコンペ、ありがとうございます、はてなクイズ
19　コーヒーブレイク、この数字をご存知ですか？
20　同窓会総会のお知らせ、編集後記

田中　正人（たなか　まさと）
富山県立大学学長
1971年　東京大学大学院博士課程終了
　　工学博士
1971年　東京大学　講師
1972年　東京大学　助教授
1974年　日本機械学会論文賞　受賞
1984年　東京大学　教授
1996年　日本機械学会機素潤滑設計部門功労賞　受賞
1997年　日本機械学会論文賞　受賞
2004年　(独)大学評価・学位授与機構　教授
2007年　富山県立大学　学長(現職)



荒木　甫（あらき　はじめ）
富山県立大学同窓会会長
1965年　富山県立大谷技術短期大学
　　衛生工学科第１回卒業
1968年　大阪工業大学土木工学科
　　編入卒業
1968年　県職員　勤務
2004年　県職員　定年退職
　　初代富山県立大学同窓会会長就任
現在、(社)富山県建設業協会小矢部支部　勤務



荒木　日本の国内ではどういう状況だったのですか。
田中　1956年に、転がり軸受の製造会社、グリース等の油脂を扱う企業、潤滑油を製造する石油元売会社等に大学の先生方が働きかけて日本潤滑学会という学会を作ったのが始まりです。でも技術や学問は発展、拡散していくもので潤滑という言葉では内容を表せなくなり、日本潤滑学会を日本トライボロジー学会に改名する変更届を監督官庁であった文部省に提出したのですが、潤滑という立派な日本語があるのになぜトライボロジーというカタカナ言葉に変更するのかと担当者の方に理解してもらえず、担当者が変わってから漸く変更することができました。それが1992年で、日本トライボロジー学会の誕生です。
荒木　私達の年代では、潤滑のイメージといえばやっぱりベアリングにグリースですね。でも新しい素材がどんどん生まれておりますし、材質が変われば考え方も変わると思いますが・・・。
田中　そうです、そのいい例があります。コンピュータのハードディスクに書き込み、読み出しをするフライングヘッド(浮動ヘッド)があり、そのヘッドとディスクの間には隙間といいますか空気の膜が必要なのです。その空気膜の厚さはどれだけか御存知ですか。
荒木　隙間があるのだろうとは想像していましたが、全く見当もつきません。一体どの位なのですか。
田中　私が学生の頃は数十ミクロン位でしたが、今は5ナノメートルぐらいです。昔に比べたら千分の一になり、そのために記憶容量が大幅に増えて小形化が進みました。ディスクの表面には非常に小さいけれども凸凹があるので、ヘッドとディスクが直接ぶつからないように潤滑が必要で、ここでも特殊な潤滑剤と特殊な表面皮膜材料が使われているのです。今までの潤滑という考え方、自動車のベアリングなどの潤滑とは別の次元です。ハードディスクの研究者は潤滑学会など知らずに研究をしていたのです。トライボロジーという新しい皮袋を用意して、そこに新しい酒を入れる仕掛けを作らなければならない。これは学会でも大学でも同じです。変えていかなくてはならないのです。ダーウィンの適者生存で変わっていかなくては生き残れないのです。
荒木　私達はいい時代に生まれましたね。さほど変わらなくても生きて来れましたから・・。
田中　ある期間は変わらなくても大丈夫なのです。例えば10年20年は大丈夫ですが、30年は続けられないと思います。
荒木　最近は変化が激しくて、自分の感覚では10年どころか1年単位であらゆる物が変化しているように感じます。
田中　最近はそうですね。
荒木　これまで大変に奥の深い話を伺っておりますが、イメージとしては捉えられても現実としてはなかなか・・・
田中　トライボロジーという用語は、普通の人が普通に使う言葉でなく、あんまり知れ渡ってはいないです。
荒木　なにしろ初めてトライボロジーという言葉を聞いたときに、この言葉のトライは「トライする」のトライだと思ったほどの知識しか持ち合わせていませんでした。

３人の創立者

田中　学会創立時に中心となって働いた先生方はすでに亡くなっておられますが、その先生方のうちお三方がご高齢になってもまだ活躍を続けておられた頃、トライボロジーについての冗談が言われたことがあります。モノクロームのモノは1、バイシクルのバイは2で、トライアングルのトライは3を意味します。しかしトライボロジーのトライは3ではないのですが、トライボロジーは3人のボロボロになったジーさんの学会だといわれたことがありました。（笑い）そういうことを学会の懇親会で言えるような学会で、気楽な先生だったので「あはは」ですみました。
荒木　面白いお話ですので、これなら私にもよくわかります。（笑い）
田中　自動車やアルミの関係でも、プレス加工や型材を作ったりする分野で摩擦と潤滑をいかにコントロールするかで製品表面の綺麗さが決まります。トライボロジーはありとあらゆるところで必要です。宇宙空間でも必要で、人工衛星を宇宙空間に打ち上げて太陽電池パネルを開こうと思ったが開かない。そこで調べてみたところパネルを取り付けているヒンジ部の摩擦が真空の宇宙空間では大幅に増えてしまい、そのために開かないことがわかったので、真空中でも使える特殊な潤滑剤を開発して解決しました。地上はもとより、宇宙、海底とどこでも、動くものすべてにトライボロジーが必要なのです。和服で帯をしますね。摩擦があるから帯をすることができるので、摩擦がなければ帯はするするとほどけてしまいます。



男声合唱団

荒木　話は変わりますが、先日の新聞情報によりますと、学長は合唱団に入っておられたとか・・・。

田中　東大で「コールアカデミー」という男声合唱団に入っていました。その当時東大には20から30の合唱団がありましたが、男声合唱団はコールアカデミーだけで、あとは混声合唱団でした。東大には音楽部があって、東大オーケストラとコールアカデミーの二つだけが音楽部の公認団体でした。そのため、入学式や卒業式でオーケストラがブラームスの大学祝典序曲を演奏し、コールアカデミーは学生歌を歌う伝統になっています。私は工学部出身ですが、時々冗談に東大の音楽部出身ですということもあります。

荒木　その関係で、北陸の地にも繋がりが生まれたとも伺いましたが・・・。

田中　私が2年生のときだと思います。北陸地区への演奏旅行があり、私が東京の富山担当のマネージャーで、富山出身の部員が現地担当のマネージャーとして協力して準備をしていました。春休みの3月におこなう演奏会の準備のために1月に富山へきましたが、それがあの38豪雪のときで、高く積もった雪に驚きました。岡谷・長野・松本・富山・金沢の順の演奏旅行で、富山では富山市公会堂でおこないました。

荒木　その当時の富山市公会堂での演奏ということは、なかなか本格的だったのですね。

田中　先日、インテックホールディングスの中尾さんと話していたら、中尾さんも富山大学で合唱をやっていて、昭和38年以前ですが富山市公会堂での合唱コンサートに参加して、コールアカデミーの歓迎会をやった覚えがあるということで、奇遇ですねと話していたのですよ。

荒木　お声からして、学長が合唱をやっておられたということは納得できますが、中尾さんは意外ですね。（笑い）

学生運動

荒木　ところで、学長の在学中は学生運動が華やかなりし頃でしょうか。

田中　大学院生のときですね。60年安保のときは高校生で、65年に学部を出て、大学院生を卒業するときに70年安保がありました。ちょうど谷間の世代です。70年安保のときはドクターコースの学生は爺様で相手にされませんでした。

荒木　本学の先祖の（笑い）大谷技術短期大学は、62年（昭和37年）に開学して、私が入学したのは63年でしたが、ちょうど全学連が賑やかに活動をしている時期で、生まれたてのホヤホヤの私達の大学にも全学連に入らないかと勧誘がしばしばありましたが、まだ出来たばかりの大学でそのような余裕は全くもありませんと断った記憶があります。

田中　私がドクターコースのとき工学部8号館にいたのですが、この館の三分の二は機械が入っていて、あとの三分の一は都市工学科でした。その都市工学の学生が先鋭的でした。都市工学の学生は町に出て勉強することが多く、社会の現実を目の当たりにして自分たちの勉強、技術が本当に社会の役に立っているのか、これでいいのかと多くの学生が思うようになったようです。しかし機械の学生は社会の現実も知らずに勉強だけしているのはけしからん、と言ってある日この建物は封鎖しますと通告してきました。当時の言葉で言えば、建物封鎖により「非日常」の状態を強制的に創り出せば、機械の学生も目を覚ますだろうという論理でした。以降は授業も研究もできなくなって、そんなことが半年続きました。それが68年から69年にかけてでした。御記憶かもしれませんが69年1月の初めに安田講堂の封鎖解除で機動隊が入り、大騒ぎでしたね。

荒木　当時は、国民のほとんどがテレビに釘付けだったのではないでしょうか。

田中　ドクターは最短3年で出られるのですが、このため私は4年かかりました。

荒木　学長の責任でもないのに大変でしたね。全学連

建設コンサルタント・補償コンサルタント
調査・測量・計画・換地・補償・監理
朝日コンサルタンツ株式会社
代表取締役　森永　晃
（農林土木科　第１回卒）
本　社　〒935-0023　氷見市朝日丘 4-29
TEL(0766)74-0774(代)　FAX(0766)74-0894

登録　●建設コンサルタント建15-788号　●測量業第12-624号
●補償コンサルタント補15-101号　●一級建築士事務所第3-1232号
●労働者派遣業　特（16）300217号
営業品目
●建設コンサルタント　●地上、衛星測量　●地図データー作成
●補償コンサルタント　●航空測量　●システム開発、販売
株式会社 上智
代表取締役 社長　楠　則夫
本　社 砺波市千代 176-1 TEL(0763)33-2085(代)・FAX(0763)33-2558
支　店 富山・県東部・南砺・高岡・射水・小矢部・石川・新潟
中四国・香川・近畿・あわじ・山口・三重・和歌山・京都・中部・東北
出張所 淡路

美しい自然、快適な地球を目指して
○環境アセスメント・土壌調査・菌試験・温泉・水道水分析
○環境調査・水質・大気調査、生物、プランクトン調査
株式会社 安全性研究センター
代表取締役　守崎 昌彦
〒930-0809　富山市興人町２番62号
TEL 076-431-6810　FAX 076-431-2809

NITTOC
日特建設株式会社
執行役員北陸支店長　按田純輝　(S46. 草農卒)
富山営業所長　多賀隆之
北陸支店　〒950-0864　新潟市東区紫竹5丁目26番1号　TEL 025-241-2234（代）
富山営業所　〒930-0916　富山市向新庄町8丁目4番50号　TEL 076-452-2766（代）

に慰謝料を請求されてもよかったのでは・・・。
田中　68年のフランスのカルチェラタンから始まり、全世界に飛び火して68年のメキシコオリンピックでも学生が暴れましたね。
荒木　学生運動の善悪は別としてあの時代の学生は元気だったですね。
田中　私の学生時代、政治や文化など多くのことを語り合いました。今はどのコンビニが安いかとか、どの先生の講義は楽勝かとかの話題が多いのではないかと思います。
荒木　今の学生は、共存共栄の原点を学ぶことよりも、手っ取り早く個人至上主義に走ってしまったということでしょうか。
田中　きわめて単純な情報交換になってしまって、感情の交流がない。感情の交流があれば、友達が出来ると思うんですが。こんなことを言えばお前は怒るのかということを解り合ってはじめて友達になれると思います。そんなことを避けて、あたりさわりのない事で済ませている。
荒木　近頃の子供達を見ていつも思うのですが。年上とか目上の人に対しての接し方が全くなっていませんね。年齢に関係なく、パッと友達になって、相手に敬称をつけず呼び合ったりする。友達になるという点ではいい面もあるのでしょうが、小学2年生が4年生を呼び捨てにしたりするようなことは好ましいこととは思えません。
田中　フラット構造になっているんですね。上級生が下級生の面倒をみたり、わからないことを教えるとか、そういう意味での関係があって、ただ威張るのでなく上級生としての自覚がある階層構造があったのですね。

同窓会

荒木　やはりさびしいですね。当学でも卒業式に後輩が花束を持ってきたりしている光景を見受けられますが。それは一部の学生に限られているようで全体的にはシラーとしているように感じられてなりません。この雰囲気は我々の同窓会活動にも影響してまして、若い人たちには「同窓会ってなに？」というような感じで、全く興味がないようです。先ほども話しが出ていたように、きわめて単純な情報交換で推移する時代背景がそうさせるのか、あるいは。県立大学としての卒業生は30代の人が多く、社会的にも個人的にも忙しい時期ということもあるのか・・・はたまた前身の短大同窓会のメンバーが中心になって運営しているという若干古い体質のせいでもあるのか・・・とついつい考えてしまいます。もちろん県立大学の卒業生にバトンタッチをする時期はいやでも来るわけですが、しばらくは自分たちが中心に動かさざるを得ない中で、総会をやっても県立大学の卒業生たちに参加していただけないというジレンマがあります。現在会員が8700名もおりますので、同窓生が一致団結すれば素晴らしい力になると思いますし、素晴らしいことが出来ると思うのですが、現実問題として、同窓会に顔を向けてもらえるのは、その内の十分の一の人ぐらいでしょうか。文書などで啓発する仕掛けはしているのですが、あまりうまくいっていないというのが悩みです。
田中　全学的でなく同期会的な集まりはありますか。
荒木　学科単位ではやっているようです。ある学科の何年から何年までの集まりがあって、それを数年ごとにやっている例はあります。
田中　私の卒業は昭和40年ですけど、それから毎年欠かさず同期会をひらいています。
荒木　それはすごい。そのお話しを伺いたいですね。
田中　機械の3学科の125人ですが、毎年同期会を開き、今年も東京で4月に開きました。大学に残った私などが幹事になり、世話を始めたのですが、本当に毎年開いています。私も中堅どころになり、忙しくなったときに、開くのは3年に一度ぐらいでいいのではないかと言ったんですが、どうあっても毎年開けという意見が多く、続いています。
荒木　なんともうらやましい限りです。やはりお世話をされる方の力量でしょうか。
田中　最近はリタイアした人も出てきていますが、同期会の2時間ぐらいは話し声が絶えなくて大変楽しそうです。打ち止めといってからも続きますね。
荒木　学長の同期の方のお勤め先は、官と民ではどちらが多いのですか。
田中　高度成長時代ですから、工学部は圧倒的に民間が多いですね。霞が関へ行った連中もいて、運輸省や通産省や科学技術庁へいきました。
荒木　科学技術庁といえば、かの有名な田中真紀子さんが長官をされていた時代に、この真紀子さんに「霞ヶ関は大臣の玩具ではありません」と喧嘩を売った当時の官房長の新（あたらし）さん。縁があって御一緒に仕事をしたことがあり、やったなと思わず拍手をしてしまいました。結局、更迭させられましたが、ついついこの事件を思い出してしまいます。
田中　同期という単位でもいいですが、学科単位でも集まることできればいいですね。
荒木　だれか熱心な人がいて、この人を中心に集まりを持てばいいのだと思うのですが、最初に言い出す人がいないですね。同窓会でそんな人を作ればいいのかもしれませんが・・。
田中　東大の場合は駒場で専門に入る前の2年間、理科1類、理科2類などに別れて勉強するのですが、その理科1類のクラスの50名でもクラス会を開いています。ほとんどが工学へ行くわけですが、行く先が電子工学であったり機械工学であったり応用化学であったりとばらばらなのですが。クラス担任であった先生をお呼びしてクラス会を開いています。その幹事もしていますが、クラス会を開くために幹事が集まり幹事会を開くわけですが、一回のクラス会のために5回から6回ぐらい開きます。幹事会を開いて集まるのが楽しいんですね。いろんな人がいるので楽しいですね。
荒木　学長の立場として同窓会に対する思いがありましたら、お伺いしたいのですが。
田中　短大時代の人は62年開学ですから、もうリタイアした人もいると思いますし、90年開学の県立大の場合は30代半ば以下の人だけですね。東大には機械同窓会というのがあり、昭和の初めの卒業生から最近の平

成の卒業生も含む同窓会ですが、なかなかうまくいかなくて、お年寄りしか集まらないという状態でした。そこでオープンキャンパスと同窓会をくっ付けて開いたんです。機械科のオープンキャンパスは午後1時から3時３０分まで開催し、そこで最近の大学の様子を見てもらい、4時から総会、5時30分から懇親会を開く。そうしたら比較的若い人の出席が増えました。大学の様子を知りたい方や、お世話になった先生にお会いして挨拶したいという方が多くて盛況でした。もう一つ、卒業時に事務局で年会費の納入等の手続きをして、会費を支払った方だけに名簿を送っているのです。あるとき毎年、同窓会の出席者に配っていたワイングラス、何年同窓会記念と金文字で書かれたものを卒業式のあと、事務局で会費の納入者に配布したんです。これが好評で多くの方が入会金を納めました。そのときは大量のワイングラスを発注したのですが、単価が下がったので総経費は大してアップしませんでした。ワイングラスは人気があり、毎年のグラスを集めている人もいます。私もいくつかのグラスは富山に持ってきています。

荒木　参加者を増やすためのアイデアですね。参考になります。私たちの同窓会の年会費は２０００円と押さえてありますが・・・。

田中　それに対する、見返りは何ですか。

荒木　会員の方からも見返りは何なのかという質問が時々ありますが、その時には、皆様あてに年1回機関誌を発行して大学なり同窓会の情報をお届けしていることと、会員個人を対象としたものではありませんが、総会のときに一般公開の形で記念講演を開いて県民の皆様にお返しをしているとお答えしているのですが、やはり直接的な見返りの要求もあり困惑しております。

田中　あんまり自分さえよければよいという人は問題だと思います。やはり、ある種の同窓会に対する帰属意識を持っている人でないと、きていただけないと思います。その帰属意識をどうやって醸成するかが問題だと思います。それはさかのぼって大学でどのような生活を送ったかということになります。ですから同窓会だけがんばっても、なかなか改善されない面があり、それでどう協力するかということはやはり学校と同窓会は共存共栄でいかなければと思います。

ダ・ヴィンチ祭

荒木　大学で開催されるダ・ヴィンチ祭は子どもさんに人気があるようですが。

田中　何千人も来るんで驚きました。ダ・ヴィンチのデッサンは２次元情報で、それを三次元の立体に作ろうとすると大変なようです。ダ・ヴィンチのデッサンから実際に菜種を搾る機械を作り、それで菜種を搾ってできた油をディーゼル燃料に混ぜて県大のバスを動かす実験をしました。バスに乗ってくれということで小杉駅までの往復を乗ったのですが、大変快適でした。初めはちょっと心配でしたが。

荒木　それは新聞にも大きく載りましたね。

田中　そうです。

荒木　ダ・ヴィンチ祭に参加した子どもたちが、県立大に興味を持ち県立大を目指してくれたら・・・と思います。近年、少子化による学生の確保が厳しい時代といわれておりますが、県立大学はこの問題とは全く無縁であるといわれて欲しいですね。

田中　ただ、今、県立大学はほぼ100％の就職率ですが、これが効くのは長くないはずです。企業でも売れ筋商品があり業績が好調なときに、次の手を打たねばだめなのと同じです。体力があるときに次を考える。県立大学でも同じと考えています。県立大学の最大の使命は人材育成だと思っています。地域貢献とか研究をして人類の知の財産を増やすこともありますが。人材育成といいますと、このサービスを受けるのは学生です。学生に多くのものを詰め込んで、世の中に評価される能力をもって卒業させればよいということだけではないと思います。学生がここにきて勉強ってこんなに面白いのかと感じることができて、それに取り組んで成果が得られた時点で高みに上ったなと実感でき、ますます勉強しようという気にさせるようなカリキュラムが必要で、今のうちに準備しておかねばと思っています。ダ・ヴィンチ祭に子どもが来るのは、ここに来ればこんなことが出来る、あんなことが出来ると楽しみにして来るので、それと同じだと思います。そういうカリキュラムが出来るかどうかで、これからの大学は決まると思います。去年で大学の定員と大学進学希望者の数が同じになりました。学生は大学を選びますから、私立大学の４割ぐらいは定員割れの状態で、私の知っているいくつかの大学は３年後に閉鎖だといっています。

荒木　現実はなかなか厳しいのですね。

人材教育のサービスモデル

田中　体力がないと持たないと思います。いかに県立大学の体力をつけるかが問題です。私はサービスモデルと呼んでいますが、優れた人材教育のサービスモデルを開発してそれを運用し検証していかなければなりません。サービスモデルのプラン・ドゥ・チエック・アクションのサイクルです。これをまわしていかなければだめです。ダーウィンの適者生存と同じで。変われることにより生き延びることが出来るのです。大学も足踏みしていてとどまっていたら、世の中で存在価値が無くなり、存在価値が無いものは無くなればいいのです。

荒木　いかに魅力のあるメニューを用意して、それを食させ、その結果を更に次のメニューに生かしていくことの繰り返しだろうと思いますが・・・。

田中　私の茨城の知人のお子さんですが、勉強しなさいとは言われないのに、勉強が好きになっていろいろなことを調べたり、解ることで一層面白くなり、自分からいろんな勉強を自発的にしているのです。その子は小学生ですが、それと同じことが大学生にも出来ないかと思います。大学に入ったのだからこの期間だけ遊べるのだと思ったりしてもらっては困るので、違った面白さ、学問とか技術の勉強の楽しさを発見してもらいたいと思います。

荒木　そのような事を大学生に対する訓辞で話されたとお聞きしていますが、それを学生は理解したのでしょうか、よっしゃ！これからは遊ぼうと固く心に

誓った学生もいるかもしれませんしね。（笑い）
田中　それは困るんだな。（笑い）
田中　私の今３０過ぎた息子の小学生時代のことですが、そろばん塾に行かせたら大変興味をもち、学校から帰ったらすぐそろばん塾へ走って行くようになったのには驚きました。何も強制しないのに面白さに引かれたからだと思います。
荒木　我が家の小学２年生の孫がそろばんに興味をもち、おじいちゃん家にはそろばんあるだろうといって、出してもらったそろばんをパチパチといじっているんですが、こんなときに教えればいいですね。
田中　そうですね、漢語で啐啄同機（そったくどうき）という言葉がありますね。雛が卵からかえるとき、殻の中から雛がつつくのと、親鳥が外から殻をつつくのが同時であるように、ちょうど意欲をみせた絶妙のタイミングで働きかけるのが大事で、ただ無理に働きかけてもだめですね。子どもが小さいとき、なぜという問いかけが子どもからあったとき、疲れているから後で、と言ったように思います。そう言わずに、その時すぐに答えてやればよかったと思います。
荒木　私も思い当たります。もうおそいですがね。（笑い）
田中　松戸のほうに住み始めて３０年近くになるのですが、近くに江戸川があったり自然にも恵まれているところです。そこにアスレチック公園がありまして、子どもをつれていったとき、子どもが体を動かすのに興味をもち始めたときかもしれませんが、親が昼寝していても大丈夫で一日中遊んでいるわけです。私はそれを大学でやりたいと思います。いろんな講義や演習や実験を用意して、あれも面白いこれも面白いといって興味のあるものにしたいと思っています。私は私の任期中にそんな取り組みをしたいと思います。完成はしないかも知れませんが、一歩でも二歩でも進もうと思っています。今年から学長裁量経費の使い方を変えました。去年の一年はよく解からなかったので、前年と同じにしていましたが、今年から変更しました。学生が面白がるそういう教育プログラムを全部の学科で募集して、良い教育プログラムには予算を付けようと思っています。学生が自分で体を使い自分で考え、そうして面白くなってのめり込むようなプログラムを募集しています。そういうプログラムが一つでも成功すれば、それを水平展開して他も変えていくことができるように思います。最終的に学生に教えたい、能力を付けたい、その能力を付ける為に学生に自発性をどうやって引き出し興味を持たせるかが大事で、それぞれの講座によって違うと思いますが、その手法には共通点があると思います。パイロット的な新教育プログラムが出てくることを期待しています。
荒木　大学で面白いものを見つけることは大事なことですね。仕事でもいやいややるのと興味をもってやるのとでは結果が全く違いますからね。ところで今現在何件ぐらい出てきていますか。
田中　締め切ったところですが１０件ぐらい提出されています。
荒木　真剣に考えておられる先生もいらっしゃるわけですね。

技術の伝承

田中　教育は性急に結果を求めるものではないと思います。ビジネスのようにすぐに結果が出るものではないですからね。
荒木　教育法案も取り沙汰され世の中には法律を変えれば何とかなるのでは・・・という雰囲気もありますが、決してそうではないと思います。
田中　瀬戸内海に橋が何本も架かりましたね。つり橋ですね、それピンジョイントが支えていまして、そこの動きを百年滑らかに動くようにして欲しいと本州架橋公団から頼まれた技術者がそれを二つ返事で引き受けたという話を聞きましたが。百年です。（笑い）
荒木　百年ですか。（笑い）
田中　その時の最高の技術は駆使したのですが、その技術者は９９年持って１００年目にだめになるかも知れないと思ったということでした。これも摩擦の働きですが。
荒木　土木ではダム底に溜まる土砂の問題がありまして、通常百年分は溜まるように計画されているんですが、では百年たったらどうするんだ！という議論があります。これに対しては百年後には新しい技術が考えられているだろうから、その時代の技術者に解決策を見い出してもらおうということですね。ちょっと意味が違いますが、先送りをする土木の話の一つに紀淡海峡大橋（和歌山と四国を結ぶ橋）の問題があります。これにつては、技術的には今すぐにでも架けることが出来るのだそうですが、ただ次の世代のために残しておくのだということです。
田中　社会資本としては費用対効果の観点もありますね。
荒木　もう一方、技術の伝承ということもありますしね。公共事業の抑制からダムや大型の橋梁などの特殊土木工事がどんどん無くなっておりますが、この結果として、これまで培われた技術が設計分野にしても施工分野にしても伝承されずに消えていく問題があるように思われます。あまりにも社会資本の整備を急ぎすぎたのかもしれませんね。
田中　工学の技術は直接、社会と人間に働きかけるものですね。技術者レベルでも十分考えなければならないことですが、高度な政治的な判断が必要なときもありますね。でも政治家の人たちはあまり専門的な知識が無い人が多いように思えますね。
荒木　昔は何全総（第〇次全国総合開発計画）とかで、１０年スパンとか長い期間で考えていたのですが、あまりにも世の中の動きが早いために、仕掛けが機能しなくなったのだと思います。それとやはり専門的な技術を生かすことに対する政治家の人たちの勉強不足を感じますね。

新しい学科「環境工学科」開設

荒木　大学の短大部の廃止についてはどうなるのでしょうか。2009年から４年制に変わると伺っていますが。
田中　新しく環境工学科としてスタートします。

荒木　それによって、先生方の陣容も大きく変わるのでしょうか。
田中　御退任される先生がここ数年多くて、少し新しいことをやろうと思っています。環境政策学という講座も考えています。その専門の先生はいらっしゃらないので新しく公募を考えています。環境工学という名称はあまり無いと思います。どんな工学的な切り口で捉えるかはいま検討中です。いまある４つの学科を高校へ行って県立大学ではこんな教育をやっています、うちの大学へ来てくださいと、宣伝するわけですけど、教える教科名を言っても内容は伝わらないと思います。
荒木　確かにそう思います。高校生に教科の内容をどのような形で具体的に説明出来るのかが大きな課題ですね。

工学部と理学部

田中　あ、そうだ会長にこれをお渡しておきます。（コピーを一部、荒木会長に手渡す）
荒木　ありがとうございます。
田中　これはスギノマシンから頼まれた巻頭言です。タイトルは「工学部と理学部」です。巻頭言は高校の先生方はほとんど教育学部か理学部の出身の方で、工学部出身の方はおられないので、工学部とはどんなところかを学生さんに正しく伝えられるよう大学が努力しないとならないという内容です。
荒木　富山大学には文理学部というのがありましたが･･･。
田中　理学部的な発想と工学部的な発想は違うので、それを知らずに大学に入ることは、ある意味で不幸なことだと思います。せっかく富山県立大学に入学して自分の思いと違っていたら困ります。高校の先生から説明された内容と大学の現実とが違うこのミスマッチは防ぎたいと思います。正確な情報をお伝えする必要があります。少なくとも70％以上の満足を得たいですね。

地域貢献

荒木　大学と地域とのつながりについてはどうでしょうか。
田中　地域連携活動の大学側の窓口として地域連携センターがありコーディネーターが活躍しています。逆に企業側から支えるものに富山県立大学研究協力会があり、会長は今年になってインテックホールディングスの中尾会長から田中精密工業の田中社長に交代されましたが、２５０ほどの企業と個人の方に支えられています。公立大学はそもそも地域貢献のためにできたもので、先生の研究と地域の企業がダイレクトに結ばれることも多いです。さきほども言いましたけど、人材育成をしてエンジニアの卵を地域に送り出し、地域の産業に貢献するのがこの大学の本来の目的だと思います。二番目には先生方との協力関係だと思います。国との直接的なものもあり、私の着任以前からのプロジェクトでバイオクラスターというのがありまして生物工学の教員が関与しています。今、第２期に入ろういて国などの審査を受けているところです。受託研究や共同研究もここ数年ぐんぐん件数もお金も増えてきています。これらは地域連携センターが機能しているおかげだと思いますし。これはまた富山県立大学研究協力会の皆様の御努力にもよるものですね。いいサービスモデルを地域連携向けに考えなければだめだと思います。
荒木　一方だけではだめですね。

やはり素敵なサービスモデル

田中　あるプログラムを作ったが、作ったのだからそれに参加してもらわなくては困るというようなことではだめだと思います。私がトライボロジー学会の会長だったときですが、理事会で「講習会の参加申し込みが少ないので、会社の理事の方に割り当てで参加者をお願いします」と講習会担当の理事が言うのを聞き、それをやめてもらいました。本来は多くの申し込みがあって、参加を断らなくてはならないような企画を立てるべきなのにという思いがあったからです。それで入門的なことを学ぶ為の講習会を刷新しました。今までは基礎を教える講習なのに、最先端の内容や高度な内容を話す講師もいたのですが、そのようなことがないように基本的なことだけに絞り込んだテキストを作り、それで講習会を開きました。そうすると企業から多くの参加者があり大変好評でした。企業側としても基本的な勉強させたいが、企業にはそのような余力が無いときに、学会が企画したぴったりな講習があり、参加したのだと思います。企業のニーズと学会の対応が一致したのです。そして、基礎的なことなら毎年同じテキストを使えるので経費節減になり、参加者も増えて学会の財政基盤の改善に貢献できました。
荒木　企業は必要ですから参加しますね。
田中　私はそれをニューサービスモデルと呼んでいましたが、学会も下手をすればつぶれますから、要求に合致したものを提供する努力は必要だと思います。これは大学運営についても同じだと思います。
荒木　頼もしいですね。そのような考え方で大学運営をやってもらえることはうれしいことだと思います。先ほど10件ほどの提案が上がっているということですし、楽しみですね。
田中　いい提案があればいいですね、もし思うようなのでなければ、それをもとに訂正してもらい作り直して、よいものにすることも出来ますね。いいものを作り上げる努力をしようと思っています。
荒木　今日は素敵な話を伺い、大きな元気をもらいました。これからも同窓会に対していろんなご意見なりお話を聞かせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。



私の好きなもの

長島 美穂（ながしま よしほ）
技術短期大学草農業科1981年卒業

①野辺に咲く花
草むらをのぞき込む。様々な緑と葉の重ねが美しく、葉陰で咲く花の彩りもまた可愛らしい。さりげなさに秘めた何かがありそうで・・・。

②和もの
和楽器、踊り、お茶、お花、着物、お寺・仏像、神社、和室、庭園・・・等、舶来物も大好きですが、より身近な日本の美学から再発見できることも多々。

③ドライ・ジン
お好みは３０度以上。独特なアルコール臭さと味はなんとも～。お酒は強く　はないけれど、少量いただくにはキリッと感がよいかな。

《近況報告》
芸術分野とのかかわりも２０年余り、マイルストーンアートワークスを開設して１３年になりました。短大で学んだものを何一つ生かせずと思ってきましたが、日々の芸術文化とのかかわりの中に、農業の営みを感じるこの頃です。大地を耕し、苗を植え、水や肥料、天候を気にかけながら大事に育てていく。多少の収穫を喜び、種を次に繋げていく。ただただ継続のみ。父が病床について、ここ数年一部の農作業を担うことになりました。すべては自分が選んできた道。受け入れながらも美しく輝く穂に近づいていけたらと・・・。

追伸：この春ＣＤレーベル（マイルストーンアートミュージック）を立ち上げました。第一弾は、植物の声からの藤枝守作曲集「クラヴィコードの植物文様」。フラジャイルな響きの綴れ織りの世界へ。



須田 正樹（すだ まさき）
工学部電子情報工学科1995年卒業

①カレー
20代後半に突然目覚めました。特に黒いスープをご飯にかけて食べる高岡市内の“D“へはよく行きます。脳に刺激を与え、元気になりたい時には最適です。同じカレーでも妻が作ってくれる特製かれーは前述の刺激とは相対してやさしいかれーです。こちらは非売品により、ご希望の方に毎年抽選で一組様に整理券を配布しています。

②旅行
見たこともない風景、珍しい料理、理解に戸惑う方言混じりの会話。そんな日常を離れる事ができる旅行がとても好きです。昔はバイクに荷物を載せて小汚いイデタチでの一人旅を好みました。今では親子でねずみの国へも行ったりします。日本には行きたい場所が豊富にあります。

《近況報告》
現在、母校の大学をはじめ、一般企業・工場、建設会社や設計事務所等を訪問し、クライアントと弊社の架け橋となれる様、日々励んでいます。口数が少ない分、相手の話に耳を傾け、意図する事を的確に提供できる営業スタイルを目標としています。

林 太佳子（はやし たかこ／旧姓：新谷）
短期大学部農業技術学科生物生産専攻1992年卒業

①ハンドメイド
子供が生まれたのをきっかけに、洋服の手作りを始めました。苦労して完成した初めての服は、娘のタートルネックトレーナーでした。あの時の達成感は今でも忘れられません。「ママの手作り服」を着て微笑む子供たちを見ていると、とても幸せになります。また作るぞ！とエネルギーをもらいます。数年前には考えてもみなかった事ですが、今では少しずつ販売も始め、毎日新作作りに励んでいます。

②旅行
お休みをみつけては、主人と自家用車で車中泊をしながら、北は北海道から南は沖縄まで旅をしました。今は子供が小さく遠出は難しいですが、いつか北海道の広大な土地を見せてあげたいなと思っています。

③ショッピング
ショッピングモールをぶらぶらしていると、何時間でも過ごせます。主人にはあきれられていますが・・・。本当に気に入ったものしか購入しませんが、見ているだけでもとても楽しいです。

《近況報告》
子供服のリサイクルショップを経営しています。手作り品の販売やハンドメイドのご相談にものっています。ヤフーブログ“ピーカブー”にて新作紹介等していますので、よかったらのぞいてみてください。

岡本 啓（おかもと ひろし）
工学部教養教育 准教授

①読書
仕事に関わる本を除くと、最近は学生時代に印象に刻まれた本を再読することの方が多いでしょうか。難解な長編小説として有名なドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』やメルヴィル『白鯨』などは、それぞれ３種類の訳本の読みくらべをしてみました。

②音楽
普段よく耳にするのはクラシックです。交響曲第９番というと、私にはシューベルトやブルックナーです。肝心のベートーヴェンはというと、ドイツ語に不案内のため敬遠しています。

③運動
本学に赴任してからはクルマ通勤をするようになり、それ以前とくらべて歩いたり自転車に乗る時間が大幅に減りました。体育館に設置された自転車エルゴメータは授業に使用しますが、自分のための運動としては変化に乏しく、使いづらいものです。

《近況報告》
長年のからだの酷使の影響が加齢にともなって顕在化するようになり、肘や膝の関節にメスも入れました。本学では「健康科学」の授業を担当しながら、当人が決して健康とはいえないことが悩みです。



平成20年度同窓会総会スナップ

平成１９年年度の富山県立大学同窓会総会が平成１９年１０月１７日（土）「ボルファートとやま」で開催された。総会は２時から約３０分で終わり、３時より富山市長森雅志氏の「人口減少時代を見据えて」と題した記念講演で、市が取り組んでいる中心市街地活性化計画を話された。４時３０分から懇親会に移り、田中学長や森市長さんも参加され、大変盛り上がり、恩師との話しや学生時代の話に花が咲き、盛会のうちに会を終えた。

↓田中学長の挨拶



↓森富山市長、講演中の様子





←荒木同窓会長の挨拶

新たな参加方式でスタート

平成１９年総会実行委員長　岩脇　喬

富山県立大学には、これまで工学部および短期大学部に同窓会があり、機関誌として「飛翔」、「千瓢会だより」の会員への提供をはじめ、会員相互の連帯を深める取り組み等それぞれの同窓会として歴史を刻んできました。

時代の流れから、近年、大学改革の一環としての学科再編成等に伴い、同窓会の見直しが迫られ、そのあり方についての検討を進めてきました。

それぞれの同窓会が抱えている弱点を補い、良い点を生かすことを考えれば、今が合併のタイミングであるとの判断から一本化することになり、富山県立大学同窓会が誕生することになりました。

今年は、富山県立大学同窓会としての本格的なスタートの年にあたり、何とかして同窓会を盛り上げようと春以来、実行委員会を立ち上げ取り組んできました。

これまでは、県内６ブロックに分けての地域開催を行ってきましたが昨年で一巡したことから、今後は学科重点に働きかけを行うこととなりました。

今年は、短期大学時代の応用数学科と衛生工学科に、工学部については、学科に関係なく呼びかけを行うこととなり、参加要請を行ってきました。応用数学科では、懇親会場でクラス会を開催する等それぞれ工夫した取り組みが見られました。

富山市内で同窓会が開催され、総会においては役員改選が行われ、向こう２年間の執行体制が承認されました。

引き続き記念講演会に移り、森富山市長の「人口減少時代を見据えて」と題しての講演となり、富山市が進めている新交通システムを基盤とした街づくりについて、富山市長の熱い思いが語られました。

懇親会では、軽音楽部 OB のメンバーによるバンド演奏にのって会員相互の親睦を深めることができました。久しぶりに恩師の先生との再会もあり、語り合いながらの楽しいひと時を過ごすことができました。

終わりに、実行委員をはじめ大学事務局並びに先生方のご協力に感謝を申し上げ、１９年富山県立大学同窓会取り組みについての経過報告とさせていただきます。

研究室の近況案内

安田研究室

短期大学部 環境システム工学科

教授　安田 郁子



卒業生の皆さんお元気ですか？先日久しぶりに、？十年前の卒業生の方が研究室に尋ねてきて下さって、短時間でしたが楽しい時間を過ごしました。毎日いろいろと忙しく、本当に字（忙）のごとく心が無くなる気がしておりましたが、卒業生の方と話しているとその方が学生だった頃の気分に戻って何となくほっとした気持ちになりました。

また、昨年１１月に日本水処理生物学会の全国大会を富山国際会議場で開催しました。その際に、多くの卒業生の方々にご支援を受けました。改めて御礼を申し上げます。１０数年前にも富山県雨晴温泉で同じ大会を開催し、雨晴海岸の絶景に多くの方から称賛を得たことを思い出し、時の変遷を感じた次第です。

ところで、短大部の環境システム工学科は２１年４月から４年制となり、工学部の１学科「環境工学科」として新しくスタートします。今までは水環境に重点を置いた教育研究でしたが、それに加えて、新しい学科では、廃棄物のリサイクルや再利用、資源循環に向けた教育研究分野を積極的に推し進めます。また、環境マネジメントや環境政策、環境リスクに関する社会系分野も新たに設けます。皆さん、是非応援してください。そして、大学にせっせと外の話を持ってきてください。

最後になりましたが、研究室の様子です。最近は「停滞水域の富栄養化」と「河川水の富栄養化」、「河川の底生生物」の３者を関連づける研究を進めています。この部分を研究している人は今のところ見当たりませんが、これがうまくいくと、河川の状況からその先の停滞水域の富栄養化管理を簡単に行うことが出来ると考えています。ただ、管理だけではなくて、富栄養化を防止する技術も必要ですが、経済的に負担の少ない技術となると、まだ実用的なものは見当たりません。これは全国的に解決の急がれている問題です。関係の仕事をなさっている皆さん、良い案がありましたら是非開発してください。

ソフトウェア工学講座

工学部 情報システム工学科

教授　鳥山 朋二／准教授　安宅 彰隆／助教　浦島 智



私たちの研究室は、教員３名、大学院生３名、学部生８名でソフトウェア技術、ネットワーク技術の応用システムについて研究し、様々なシステム開発を行っています。各種センサーを用いた人間の位置取得や行動判別、及びセキュリティ技術をはじめとするネットワーク関連の要素技術の研究やそれをベースにした人や社会に浸透する情報システムの開発を目指しています。

具体的な応用研究フィールドとしては、第一に老齢人口比率が高い富山県に必須と考えられる医療看護支援分野を対象としています。昨今クローズアップされることが多い団塊世代の退職問題が徐々に表面化してくるに伴い、これらの人が退職後に富山に住みたいと感じるような医療情報インフラの確立の必要性を感じています。県が実施している医師数確保対策と並行してユビキタス技術･ネットワーク技術を利用した効果的な医療情報システムの確立を行いたいと考えています。

また第二に､教育分野を対象とした研究をすすめていきたいと考えています。3000m級の立山や蜃気楼が見える魚津、冬の日本海などのフィールドは実践的な教育現場としては非常に価値の高いものです。例えばこのフィールドでネットワークを利用して屋外学習者と遠隔在宅学習者を接続した協調学習を構築することにより世界中の人と富山の自然環境を共有できる学習を行うことができます。さらに、行動認識技術を用いて得られる学習体験や学習過程を同時に蓄積することによってこれまで以上に価値のある教育コンテンツの創生が期待できます。

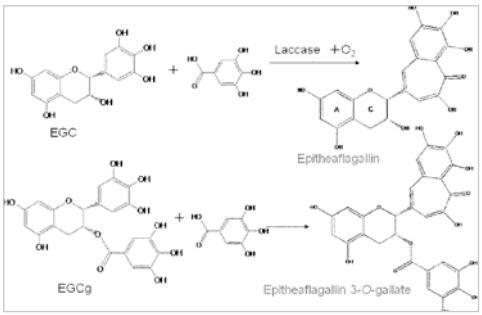
今年度より教員が新体制となったため、目下手探りで進めている状態ではありますが、これから研究室としての新たな文化を生み出しつつ、学内、及び地域の各機関の協力を得ながら上記のような地域の産業活性化につながる研究成果を輩出していきたいと考えています。

応用生物プロセス学研究室

工学部 生物工学科

(旧 生体触媒化学)

教授　伊藤 伸哉／准教授　大利 徹／講師　牧野 祥嗣
http://www.pu-toyama.ac.jp/BR/itoh/



緑茶のカテキンを機能性の食品素材に変換するバイオプロセス

私どもの研究室は、教授　伊藤 伸哉、准教授　大利 徹、講師　牧野 祥嗣の３名の教員と大学院生３名、嘱託研究員４名、アルバイト２名の小さな研究室です。しばらくすると学部生が研究室に入ってきますので、彼らの若いパワーに期待するところ大です。研究室では、新しい酵素触媒を探索し、その機能・諸性質を解明するとともに、それらに遺伝子工学的増幅や蛋白質工学的強化、ハイブリッド化などの改良を加え、新しくより効率的なバイオプロセスをデザインしようと考えています。また、イソプレノイド化合物の生合成に関連する遺伝子群の探索や、有用遺伝子のメタゲノムからのスクリーニングなど遺伝子に注目した研究も進めています。個々の内容は、ホームページを参照してください。最近のトピックスとしては、上図にあるように、緑茶のカテキンを機能性の食品素材に変換するバイオプロセスを開発しました。これまでのバイオプロセスは、主に化学産業への応用を目的としてきました。この技術は食品を対象としており、趣も異なり色々と苦労も多かったのですが、産官との共同研究が順調に進みました。当初は、文部科学省の知的クラスター創成事業、平成 20 年からは、経済産業省の地域イノベーション創出事業の助成を受けることが決まりました。大学の研究室運営には、色々な組織と同様、人材と資金が最も重要です。知的クラスターのような事業に参画でき、もちろん関係する方々の努力の賜物ですが、それなりの実績を上げられたのは幸運だったと思います。研究室からは例年 2-3 件の特許を申請しており、産官学連携研究の実績は十分です。おそらく信頼していただける研究室の一つだと思いますので、企業の皆さんどんどん投資（共同研究、奨励寄付の申し込み）してください。

エコデザイン工学講座

工学部 機械システム工学科

(旧 設計工学講座)

教授　春山 義夫／講師　堀川 教世



私たちの研究室は平成 18 年の改組に伴い機械システム工学科のエコデザイン工学講座に所属しています。教員 2 名と大学院生 6 名（社会人博士 1 名、修士 5 名）、学部生 6 名で、トライボロジー分野と材料強度分野に分かれて研究を行っています。研究内容は、トライボロジー分野では表面に硬質膜をコーティングすることにより摩擦低減と耐摩耗性の向上を図った表面改質材の性能評価に関する研究を行っています。材料強度分野では微小径繊維の機械的特性の評価やマイクロセンサーの開発の研究を行っています。学生は熱心に研究に取り組んでおり、学会発表も積極的に行っております。その成果か、一昨年から連続して学生が学会発表で表彰を受けており、今年では既に 2 人の学生が学会から奨励賞を受賞しています。研究ばかりのようですが飲み会も多く、研究室は非常に活気にあふれた楽しい雰囲気になっています。卒業生の皆さん、お近くにお越しの際には是非お立ち寄り下さい。

マイクロ・ナノシステム講座

工学部 知能デザイン工学科

(旧機械力学・機構学講座　野村・神谷研究室)

教授　野村 俊／准教授　神谷 和秀



学科改組によって、知能デザイン工学科へと所属が変わり、所属講座も「キリキ」の愛称で親しまれていた「機械力学・機構学講座」から「マイクロ･ナノシステム工学講座」となりました。新講座では、加工とバイオの領域を専門とするスタッフと共に我々が得意とする光を用いた計測技術を武器に融合領域の開拓に日々努力しています。今年は、学部生 6 名，大学院生（修士 6 名、博士 1 名）を迎え、忙しい毎日を過ごしています。企業や他大学との共同研究なども積極的に行い、また、講座内のコミュニケーションをはかるため，コンパやバーベキュー大会も欠かさず行っています。最後に、うれしいお知らせです。約 10 年前からダ･ヴィチの手稿をもとに，木製の機構模型の復元を行い、ダ･ヴィンチ祭を筆頭に、国内外で見学者が模型に触れられるような展示会を継続的に行ってきました。2006 年には、その活動が評価され科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞しました。



探しています

住所をお知らせ下さい。（会員住所不明者の一覧です。）

安池達　真　澄（技 1 機械）
上　忍（技 1 機械）
野崎　健（技 1 機械）
藤井岡　明保（技 2 機械）
笹田中　男夫（技 3 機械）
川神波　志成（技 3 機械）
吉斉藤　和平（技 5 機械）
長藤島　勝慎（技 5 機械）
藤山平崎　文一（技 5 機械）
蔵　豊（技 6 機械）
久湊　弘（技 7 機械）
沢井　登（技 8 機械）
武内　清孝（技 8 機械）
和泉田　清好（技 9 機械）
得　信進（技10 機械）
榎牧野　栄昭（技12 機械）
原田原　秀雄（技12 機械）
篠原　秀正（技13 機械）
永粟田　憲昇（技14 機械）
青山田　栄治（技15 機械）
穴飯野　裕敏（技16 機械）
西田　武之雄（技16 機械）
大久保　逸国人（技16 機械）
田島　良三（技17 機械）
山田畑　正雄（技17 機械）
堤　雄仁（技18 機械）
国谷田　春生（技18 機械）
沢辺崎　名孝（技19 機械）
渡釣陳　弘司（技20 機械）
中井澤　昌三（技21 機械）
市川城　和央（技24 機械）
今水　守一（技25 機械）
清森　敏弘（技25 機械）
米大米　雅人（技27 機械）
西柳大　雄亮（技27 機械）
吉竹竹　将義（技28 機械）
姫金西　貴広（技28 機械）
田中浦　宇裕（技28 機械）
松小門　雄信（技28 機械）
稲田　徹（技 2 農機）
加手操　清郎（技 2 農機）
村上　善陸（技 3 農機）
岩木　淳之（技 3 農機）
草島　豊（技 3 農機）
垣地　昭一（技 3 農機）
太田　隆康（技 3 農機）
斉藤　誠（技 3 農機）
長谷川　利春（技 4 農機）
横山　雄一郎（技 4 農機）
吉崎　博（技 4 農機）
片口　玲子（技 5 農機）
岡本　義典（技 5 農機）
田村　克巳（技 5 農機）
田田　仁子（技 5 農機）
中田　教子（技 5 農機）
谷　睦子（技 5 農機）
堀江　時子（技 5 農機）
竹田　律子（技 5 農機）
吉田　歌子（技 5 農機）
水野　孝子（技 5 農機）
中山　裕美子（技 5 農機）
阿部　都子（技 5 農機）
安藤　やす子（技 6 農機）
森山　順子（技 6 農機）
須田　裕美子（技 6 農機）
斉藤　章子（技 6 農機）
麻生　正子（技 6 農機）
宮地　栄子（技 7 農機）
宇野　順子（技 8 農機）
成瀬　君代（技 8 農機）
富田　恵子（技 9 農機）
飯島　健治（技10 農機）
田中　弘子（技10 農機）
小久米　典子（技10 農機）
武内　康子（技14 応数）
山内　芳明（技15 応数）
荒井　直美（技16 応数）
吉村　真理子（技16 応数）
泉野　智志（技17 応数）
大石　稔（技17 応数）
野口　千香子（技17 応数）
常田　慶子（技18 応数）
広田　美津子（技18 応数）
不破　好朗（技18 応数）
日吾　ゆり子（技18 応数）
磯　朱美（技19 応数）
植田　若葉（技20 応数）
山田　千秋（技20 応数）
魚倉　令子（技21 応数）
桜井　寿子（技21 応数）
松原　左知子（技21 応数）
越野　澄子（技24 応数）
海野　愛（技25 応数）
中島　雄大（技25 応数）
長谷　健吾（技26 応数）
二口　明子（技26 応数）
村上　千賀子（技26 応数）
萬里小路　弘知（技26 応数）
塚本　淳（技27 応数）
三ツ山　茂元（技27 応数）
古畑　正則（技27 応数）
岡本　麻記子（技28 応数）
渋谷　徹（技28 応数）
棚辺　豊（技28 応数）
西川　加津枝（技 1 衛工）
藤井　千廣（技 2 衛工）
藤田　美恵子（技 3 衛工）
宇都宮　広子（技 4 衛工）
江本　誠志子（技 5 衛工）
中山　丈美子（技 5 衛工）
江尻　由貴子（技 6 衛工）
江本　清子（技 7 衛工）
牛木　昭枝（技 7 衛工）
高桑　春彦（技 7 衛工）
鈴木下　俊修（技 8 衛工）
松柴　久美子（技 9 衛工）
清水納　尚子（技 9 衛工）
加鞍田　安則（技10 衛工）
武田　竜二子（技10 衛工）
野口　八重子（技10 衛工）
吉岡田　茂明（技14 衛工）
上田添　幸由淳（技15 衛工）
玉道木　用一（技16 衛工）
梶川　篤彦（技17 衛工）
林　睦子（技19 衛工）
梅本　乃里子（技20 衛工）
谷崎　友香子（技21 衛工）
永川　恵美子（技23 衛工）
本瀬　泰二（技24 衛工）
福川　正俊（技 1 草農）
金井　彦一（技 1 草農）
高柳　誠（技 4 草農）
東　勇治郎（技 4 草農）
安川　信義（技 4 草農）
松井澤　久政（技 4 草農）
大近藤　武達（技 5 草農）
原　克彦（技 6 草農）
太田村　康寛（技 7 草農）
寺尾　義裕（技 9 草農）
中村　充隆（技10 草農）
池田木　大三郎（技10 草農）
青岡廣　伸彦（技11 草農）
米篠　英治（技12 草農）
疋本　美雪（技13 草農）
小花　史晃（技14 草農）
北堀　弘美（技14 草農）
鎌仲　昌信（技16 草農）
近藤上　明子（技17 草農）
二岡田　浩一（技17 草農）
清水田　勝則（技18 農学）
杉尾崎　年伸（技19 農学）
上保井　欣紀（技20 農学）
若井　由美（技20 農学）
島崎　健（技21 農学）
横山　正幸（技27 農学）
増山　稔（技 3 農土）
安藤　均（技 3 農土）
曾原　幸二（技 5 農土）
村上　正（技 6 農土）
川田　温明（技 8 農土）
坂口　邦起（技 8 農土）
矢田　由美（技 8 農土）
池田田　克司（技 9 農土）
岡田　安平（技 9 農土）
水口房　貫（技10 農土）
大子　和馨（技12 農土）
金本中　久志（技12 農土）
松村　俊久治（技12 農土）
黒中田　研治（技13 農土）
中北野　貞治（技14 農土）
菅谷　秀一（技14 農土）
長山田　修樹（技14 農土）
森川　昌典（技19 農土）
西　征治（技19 農土）

後藤　さおり（短 1 生物）
宮川　清章（短 1 生物）
湯島　香桜里（短 1 生物）
高山　望美（短 2 生物）
棚橋　京子（短 2 生物）
伊藤　みづほ（短 4 生物）
清水　貴絵（短 4 生物）
田中　陽子（短 4 生物）
櫛田　理恵子（短 5 生物）
坂田　さと子（短 5 生物）
柴　雅恵（短 5 生物）
鈴木　愛（短 5 生物）
野村　保江（短 5 生物）
原　まどか（短 5 生物）
福井　昌代（短 5 生物）
山田　美智子（短 5 生物）
井上　美香（短 6 生物）
原田　寛子（短 6 生物）
水口藤　寿恵（短 6 生物）
山藤　稔之（短 6 生物）
志津野　雅美（短 6 生物）
谷口　久美子（短 7 生物）
村尾　るみこ（短 7 生物）
伊藤　由美子（短 9 生物）
河内　巧（短 9 生物）
本多　陽子（短 9 生物）
日下　泰昌（短10 生物）
林　千裕（短10 生物）
卜部　めぐみ（短11 生物）
小森　美穂（短11 生物）
神谷　敏広（短12 生物）
清水山　沙織（短12 生物）
松子　明子（短12 生物）
金井　真実（短13 生物）
古井　多恵（短14 生物）
長谷川　純子（短16 生物）
矢野　亜沙香（短16 生物）
林　健造（短 1 土木）
北村　和康（短 2 土木）
桜井　辰生（短 2 土木）
谷　和枝（短 2 土木）
梨木　裕（短 2 土木）
野澤　克治（短 4 土木）
野村　勝（短 5 土木）
北岡　紀香（短 6 土木）
佐々木　竜也（短 6 土木）

千瓢

中島　英一（短7土木）
松島　真由美（短7土木）
荒木　雅代（短8土木）
北村　要司（短8土木）
竹中　妙子（短8土木）
谷口　好美（短9土木）
森田　真都（短9土木）
家島　章旨子（短10土木）
加藤　都紗（短11土木）
余川　弘一（短11土木）
亀田　小百合（短12土木）
小林　勝人（短1環境）
鈴木　経礼（短1環境）
神田　智子（短1環境）
台本　和義（短1環境）
野村　明宏（短1環境）
中山　純（短2環境）
沖　好美（短2環境）
小森　おり子（短3環境）
小林　規子（短4環境）
脇坂　悦子（短4環境）
安東　美和子（短5環境）
木場　千賀子（短5環境）
柴崎　奈美子（短5環境）
藤根　優香（短5環境）
四方　政樹（短6環境）
高瀬　祐希子（短6環境）
杉山　友佳（短7環境）
浜川　史亘（短7環境）
松平　幸司（短7環境）
高橋　幸栄子（短8環境）
徳岡　咲信生（短9環境）
山上　勝奈子（短10環境）
金森　弥泰（短11環境）
橘　美理（短12環境）
明野　真希（短13環境）
桶本　泰（短13環境）
大畑　真理（短16環境）

飯吉　裕（大1機械）
今井田　樹（大1機械）
上田倉　晋（大1機械）
大小暮　幸（大1機械）
倉石谷　司（大1機械）
山島田　透（大1機械）
猿竹竹　才（大1機械）
飛山西　浩（大1機械）
中村口　直（大1機械）
中樋不　朗（大1機械）
前松井　人（大1機械）
松本島　市（大1機械）
水宮山　一（大1機械）
山今奥　誠（大1機械）
片北熊　一（大1機械）
杉山　司（大1機械）
橘　勝（大1機械）
西野　透（大1機械）
弘田　才（大2機械）
一智　浩（大2機械）
一誠　直（大2機械）
二江　朗（大2機械）
二史　人（大3機械）
夫博　市（大3機械）
樹司　一（大3機械）
浩賢　誠（大3機械）
之宏　司（大3機械）
寛志　勝（大3機械）
朗輔　宏（大3機械）
了明　純（大3機械）
仁史　子（大3機械）
良光　義（大4機械）
慈美　宏（大4機械）
樹哉　明（大4機械）
昇且　人（大4機械）
志規　礼（大4機械）
二之　子（大4機械）
由聡　美（大4機械）
弘史　和（大5機械）
雄郎　宏（大5機械）
夫拓　明（大5機械）
正子　志（大5機械）
介希　志（大5機械）
武久　也（大5機械）
郎朗　宏（大5機械）
志志　一（大6機械）
也宏　敦（大6機械）
一敦　平（大6機械）
平宏　明（大6機械）
明平　児（大6機械）
児介　一（大6機械）
一也　伊（大6機械）
伊上　渉（大6機械）

浩　樹（大10機械）
樹之　隆（大10機械）
隆光　悠（大11機械）
悠司　篤（大12機械）
篤介　司（大12機械）
司卓　美（大12機械）
美貴　克（大12機械）
克彦　史（大12機械）
史美　博（大13機械）
博宏　嗣（大13機械）
嗣子　孝（大14機械）
孝光　也（大1電子）
也充　範（大1電子）
範樹　司（大1電子）
司剛　哲（大1電子）
哲宏　生（大1電子）
生也　幸（大1電子）
幸次　樹（大1電子）
樹之　志（大1電子）
志子　詞（大1電子）
詞亨　宏（大1電子）
宏也　一（大1電子）
一郎　弘（大1電子）
弘則　典（大1電子）
典行　子（大1電子）
子弘　一（大1電子）
一孝　志（大1電子）
志雄　美（大1電子）
美二　典（大1電子）
典也　寛（大1電子）
寛和　一（大1電子）
一透　稔（大1電子）
稔直　也（大1電子）
也亮　亮（大1電子）
亮正　武（大1電子）
武崇　絵（大1電子）
絵祐　昌（大1電子）
昌拓　秀（大1電子）
秀敬　澤（大1電子）
澤井　敏（大1電子）
敏和　塩（大1電子）

原　康（大2機械）
尾関　祐（大2機械）
林寛　寛（大2機械）
宮森　弘（大2機械）
西谷　一（大3機械）
越前本　伸（大3機械）
桶谷　充（大3機械）
倉谷　伊（大3機械）
笹本　玲（大3機械）
橋本　健（大3機械）
谷原　本（大3機械）
林原　俊（大3機械）
奥川上　修（大3機械）
川木田　恵（大3機械）
木坂元　憲（大3機械）
坂杉山　俊（大3機械）
丸中澤　博（大3機械）
中西村　奈緒（大3機械）
山片本　和（大3機械）
井大口　公顕（大3機械）
大丘畑　真理（大3機械）
丘齊山　哲（大4機械）
齊高藤　貴（大4機械）
高辻橋　哲（大4機械）
辻林　久直（大4機械）
松園　浩（大4機械）
宮川　園（大5機械）
柳瀬　和（大5機械）
余西　弥（大5機械）
梅原　加寿（大5機械）
太田　忠（大5機械）
加門　浩（大5機械）
木下　智（大5機械）
柴田　康（大5機械）
新保　篤（大5機械）
中西木　舞（大5機械）
土林　貴（大5機械）
林澤　崇（大5機械）
深下　研（大5機械）
宮本　順（大5機械）
吉辺　司（大5機械）
渡田　昌（大5機械）
池黒　智（大5機械）
石越　佳（大5機械）
牛間　宏（大5機械）
先口　世（大5機械）
辰佳　智（大5機械）
辻井　亮（大5機械）
永岡　正（大5機械）
松本　武（大5機械）
宮田　崇（大5機械）
福田　絵（大5機械）
池東　祐（大5機械）
伊島　昌（大5機械）
上林　拓（大5機械）
浦林　秀（大5機械）
神山　敬（大5機械）
杉藤　澤（大5機械）
須原　井（大5機械）
中井　野（大5機械）
東岡　塩（大5機械）

純　慎（大6電子）
介　理（大6電子）
恵　久（大6電子）
彦　崇（大6電子）
博　高（大6電子）
広　修（大7電子）
平　宏（大7電子）
誠　内（大7電子）
香　田（大7電子）
輔　貞（大7電子）
彦　岳（大7電子）
理　真（大7電子）
平　耕（大7電子）
緒　奈（大7電子）
寛　健太郎（大7電子）
司　忠（大7電子）
了　隆（大8電子）
誠　東（大9電子）
宏　宮（大9電子）
治　康（大9電子）
人　勝（大9電子）
裕　彰（大9電子）
一　明（大9電子）
之　慎（大9電子）
二　友（大9電子）
規　健（大10電子）
子　寿（大10電子）
理　真（大10電子）
聡　田（大11電子）
晃　啓（大11電子）
志　聡（大11電子）
和　佐（大12電子）
和　正（大12電子）
一　憲（大12電子）
帆　真（大12電子）
成　恭（大13電子）
之　悟（院前5機械）
司　剛（院前1生物）
勲　未（院前1生物）
帆　孝（院前2生物）
志　成（院前2生物）
史　真（院前3生物）
吾　直（院前3生物）
愛　史（院前4生物）
郎　智（院前4生物）
美　智（院前4生物）
久　智（院前6生物）
豊　永（院前7生物）
賢　沢（院前9生物）
登　原（院後1生物）
保　（院　論　文）

藤　慎理久（大6電子）
介　武橋内（大6電子）
高竹西山小（大6電子）
竹中野深舟（大7電子）
増松三渡北（大7電子）
伊大佐清知（大8電子）
辻宮岩大寺（大9電子）
有竹波荒井（大9電子）
納弘水植榎（大9電子）
藤齋津工鷲（大9電子）
石入久淺林（大9電子）
宮大菅（大10電子）

※( ) 内について

（短 6 環境）
- 学科名
- 卒業回
- 技　・・・技術短大
- 短　・・・短期大学部
- 大　・・・工学部
- 院前・・・大学院前期
- 院後・・・大学院後期

お友達のお名前がありましたら住所をお知らせ下さい。

同窓会日誌

2007年8月10日~2008年8月26日 No. 7

この日誌は富山県立大学同窓会の山口郁子事務局長の日誌です。同窓会のホームページに載っているものを今回「千瓢」に掲載しました。時々ホームページを見てください。最新の日誌が載っています。

《2007年》

●8月10日（金）
夜　理事会を開きました。理事の皆さんに総会に関して実行委員長のほうから開催日時・場所・講演会について説明をしていただきました。編集長からは「千瓢」第2号の進行状況の説明もありました。

●8月27日（月）
印刷屋さんにお願いしてあった振込用紙の初稿ができてきました。口座名の変更もあり、10月から郵便局も民営化なので少し手直しが必要でした。

●8月31日（金）
振込用紙が届いたので、印字開始です。前日には宛名シールを作成したのですが、県外の工学部の卒業生には特別な案内も送付してほしいと大学事務局から依頼があったので細かく分けて印字しました。

●9月6日（木）
振込用紙の印字が終了したころに封筒が印刷完了して届きました。最初もたついていたので不安だったのですが、意外と早く封筒が印刷できたので早速封入開始します。

●9月10日（月）
人（学科）によって封入するものが微妙に違うので結構気を使って宛名シール・振込用紙・会費納入依頼文を袋詰めしています。もくもくとしているのですが、一日中座りっぱなしなのでかなり腰に負担が来ています。

●9月12日（水）
夜　実行委員会開きました。総会に併せてクラス会をするところもあり、なかなかよい出足です。チラシのことで少しトラブルがあり、印刷が間に合わないので会員向けに封入しないこととして行政センターなどへおかせてもらうこととしました。

●9月13日（木）
やっと7,924通袋詰め終了です。ホッとしました。後は「千瓢」第2号の仕上がりを待つばかりです。昨日にはデータが印刷屋さんにわたっているので、お任せですが・・・。20日までに仕上がるかな？

●9月18日（火）
発送業者から最終確認の電話がありました。明日にでも印刷業者に確認をしてまた電話をする予定です。夕方総会チラシの雛形ができてきましたので、会長・実行委員長の確認をとるためメールの転送・FAXしました。FAXはモノクロなので雰囲気が伝わったでしょうか？

●9月20日（木）
お昼に「千瓢」第2号が仕上がってきました。午後から発送業者へ手渡したので、後は業者の方に「千瓢」第2号を一部づつ封筒に入れてもらい発送してもらうだけです。会員の手元に届くのは10月1日頃の予定です。ちょっと一段落かな。

●10月3日（水）
実行委員長と総会会場のボルファートとやまで打ち合わせです。会場を確認しながら調整しました。まだまだ細かい調整をしなくてはならないとは思うのですが・・・。

●10月4日（木）
荒木会長と学内の招待者へ招待状を持っていって、出席をお願いしました。残念ながら学長は不在でしたが、局長にお会いしてお願いしてきました。

●10月11日（木）
昨日に引き続き朝から総会資料作りをしています。昨年は会計がやっと一緒になったところだったので資料の作り方が少し違っていたのですが、今年からは例年通りにできるのでわりとスムーズにできました。

●10月16日（火）
午前中に会計監査をしてもらいました。午後からももう一人の方に監査をしてもらう予定にしていたのですが、急遽体調が悪いとのことで来週となりました。

●10月22日（月）
今晩　理事会を開きます。総会資料の確認、総会当日の役割分担など総会に向けて準備です。

●10月25日（木）
明日には総会関係の資料などを会場に預けるので、忘れ物のないようにしなくては・・・。

●10月27日（土）
朝から土砂降りです。講演会などへの出席者の出足が悪くちょっと恨めしく思われる雨です。市長の話はとても興味深く面白かったようです。（残念ながら裏方に徹していたため聞けませんでした。）

●11月6日（火）
総会に関してのすべての支払いが終わったので、収支報告を作成しました。昨年に比べてかなり安くあがっていました。

●11月9日（金）
去年・今年と卒業生名簿に住所を載せない方が増え、「千瓢」を届けることができませんでした。事務局にお願いしてそういう方々のリストをいただき、遅ればせながら発送作業をしています。

●11月21日（水）
年会費の入金状況をチェックしました。今年から工学部卒業生の方々にもお願いしているのですが、振込先が郵便局だけですのでなかなか難しいところです。

●12月7日（金）
今晩は理事会です。会長を含め１０名の理事の出席をいただき、来年の総会に向けて今年の総会の反省をしながら活発な意見が出てとても有意義でした。

●12月20日（木）
来年発行の「千瓢」の準備をちょっぴり始めました。手始めに送られてきたメールなどを確認しています。

●12月25日（火）
もう少しで今年も終わりですね。何となく気ぜわしくバタバタしているのは私だけでしょうか・・・？

《2008年》

●1月8日（火）
明けましておめでとうございます。遅ればせながら今日から仕事始めです。事務局へ来て最初にした仕事は休みの間に来ていたメールのチェックです。迷惑メールばかりでそれを削除していくことが初仕事でした。トホホ。

●1月10日（木）
今年の総会に向けて始動。実行委員の方をお願いしなくてはと思うのですが・・・。

●1月15日（火）
今週末はセンター試験があるので、大学内は何となく緊張感が漂っています。今日はお天気がよくて暖かなのですが試験当日もこのような日ならよいのにね。

●1月31日（木）
以前から気になっていた年会費の振り込み手数料についてゆうちょ銀行のHPで調べてみました。以前に比べて値上がりしているとは思っていたのですが、人によって金額が違うのです。窓口を利用すると120円ATMを利用すると80円の手数料がかかるとのことでした。なるべくATMを利用することをPRしなくてはと思いました。

●2月14日（木）
夕べから降り続いた雪で今朝は銀世界。寒いです。バレンタイン寒波とか・・・？今年の冬はあまり雪が降らなくて助かっていたけどやっぱり降ってきましたね。

●2月20日（水）
先週末には短大部の行枝先生、今日は工学部の畑田先生、安井先生の最終講義が行われました。よく知っている先生がおられなくなるのは寂しいものです。

●3月25日（火）
学位記授与式です。暖かくとてもよいお天気で、工学部160名・大学院 61 名・短大部 36 名・専攻科 15 名の晴れの門出です。それぞれの道へ向かって母校を巣立っていきます。おめでとうございます。
●4月7日（月）
大学の入学式です。花冷えで少し寒い日ですが、大谷講堂前の桜も満開で入学生を祝福しています。入学式前に中島前学長寄贈のスクエアシェルターの除幕式も行われました。会長が出席されたのですが、座り心地もよく暖かい日なら本を読んだりお弁当を食べたりできてよい場所ができました。
●4月10日（木）
一昨日ぐらいからメール・インターネットが繋がらなくて変だなあと思っていたら、大学のパソコンにハッカーが侵入していたようです。ビックリです。特に大きな被害はないみたいですが、インターネット接続しているパソコンに会員データをいれていなくてよかったなあとホッとしています。
●4月24日（木）
昨日の実行委員会で開催日を大学祭の時に変えたのですが、今日はそのことで事務局の方に会場を確保するために交渉していました。ところがなかなか思った会場がなく、実行委員長にも来ていただき見てもらったのですが困っています。
●4月28日（月）
総会会場について事務局の OK はもらえたのですが、使用方法について担当の先生との打ち合わせが必要と言われたのですがなかなか先生に会うことが出来ません。連休に入るので難しいのかな・・・。
●5月20日（火）
アリーナ会場を宴会担当の方に見て頂きました。予定人数のわりには大きい会場となるので仕切ってもらうことも必要ですしいろいろと気になることもあり、実行委員長と一緒に体育の岡村先生にも挨拶方々会ってきました。
●5月21日（水）
機関紙「千瓢」の広告依頼を郵送しました。普通封筒で送ったのですが、第 2 号も同封したりしているので重くなってしまい大型封筒で送るのと変わらない郵送料でした。次回からは大型封筒で送った方がわざわざ機関紙を折り曲げたりしなくてすむからよいのではと思ってしまいました。
●5月27日（火）
池上編集長のところで打ち合わせをしました。「千瓢」第3号、HP のことも含めて先に進めて行けることからさせていただくとの方針です。
●5月29日（木）
年会費の納入状況の確認をしました。今年度から工学部の方へもお願いしたのですが、短大部・工学部ともなかなか納めていただけません。若い方々の意識を同窓会へ向けていただけるにはどうしたらよいでしょうかね・・・？
●6月17日（火）
学長と会長の対談が無事終わりました。学長の研究のことや学生時代のこと、大学・学生への思いも聞かせてもらいました。2時間の予定でしたが、あっという間にすぎました。
●6月25日（水）
昨夜、編集会議を開きました。私を含めて 6 名の方々での会議です。「千瓢」第3号の特集は田中学長と荒木会長の対談です。ちょうど学長就任 2 年目となり田中学長のカラーがでてきてからの対談ですので、なかなか面白いものになると思います。
●7月1日（火）
6 月末日までにということで原稿依頼をしていた方々から原稿が順調に届きました。後 2 名ほどの方はまだですが、連絡をとったらもう少し時間をとのこと。なかなかよい調子で進んでいます。
●7月9日（水）
理事会を開きました。会長を含め 12 名の方に出席してくださり、総会日程の説明を横堀実行委員長、機関紙「千瓢」第 3 号の概要については池上編集長がされました。総会については学内でさせていただく予定ですが、まだまだ詳細が決まっていなくて日程と場所の承認だけでした。
●7月18日（金）
やっと郵便振込用紙の承認番号がいただけました。あとは承認番号を印刷した見本をもう一度送ってから印刷開始です。「千瓢」の広告が出来上がってきましたので、広告主さんのほうへチェック依頼をしました。
●7月23日（水）
今晩は総会実行委員会です。連絡員向け案内文の確認、大学及び同窓会ゴルフコンペの案内文などの確認もしていただきました。総会当日のアトラクションや懐かしい写真の展示も考えています。
●8月19日（火）
長いお盆休みをいただき、家でリフレッシュ（？）してきて今日から仕事開始です。お盆休み前に仕上がっていた振り込む用紙の印刷を始めました。振込用紙の形態が変わったのでその部分の調整もしなくてならず、少し手間取りましたが順調に印刷が進んでいます。
●8月26日（火）
ずいぶん涼しくなり、学内は来年の短大部 4 年生に向けて短大部棟のリフォームをしています。（残念ながら事務局はしてもらえませんが・・・。）学生が夏休みでいなくて静かなのですが、かわりに工事の機械音が響いています。

総合建設コンサルタント
株式会社 協 和
代表取締役社長 藪 内 克 義
本 社 富山県高岡市北島1406
TEL 0766－22－2100／FAX 0766－22－7602
富山支店／氷見支店／射水支店／南砺支店／新川支店／関西出張所

北建コンサル株式会社
一級建築事務所
測量・調査・設計・補償
代表取締役社長 鷲 北 慎 一
富山県高岡市内免３丁目３－６ 〒933-0941
TEL(0766)23-3666(代) FAX(0766)23-3987

地産地消ってなに？
地元産が一番フレッシュ
いただきます！富山
富山県JAグループ

株式会社 立山興産
代表取締役 黒 川 浩 正
（農業機械科 第１回卒）
富山市堀川小泉町８４５-１３
電 話（076）422－2236(代)
ＦＡＸ（076）422－2509
業務内容 マンション賃貸業

富山県立大学検定クイズ

流行に乗っかってみましたー！

あなたは富山県立大学のことをどれだけ知っていますか？
是非クイズに挑戦してみてください。

Q1 富山県立大学研究協力会の初代会長は？

A．田中一郎
B．塩井保彦
C．中尾哲雄

Q2 平成21年4月に開設される学科は？

A．生物工学科
B．環境工学科
C．機械システム工学科

Q3 毎年8月に大学で開催される、簡単な実験やものづくりなどを通して、子どもたちに理科の楽しさを紹介する科学イベントの名前は？

A．ダ・ヴィンチ祭
B．ニュートン祭
C．アインシュタイン祭

Q4 同窓会で発行されている機関誌「千瓢」の題字を書いているのは誰？

A．浦野泰子
B．石川香織
C．高橋昭雄

Q5 大学の講堂の名前は？

A．谷講堂
B．大谷講堂
C．大山講堂

Q6 大学で映画ロケがおこなわれた映画の題名は？

A．少年時代
B．蛍川
C．草刈り十字軍

答えは 18 ページを見てください。



集まってま～す

＜衛生工学科1989卒の同窓会＞

卒業20年目の同窓会



「同窓会をしよう！」と、友人から突然電話で持ちかけられました。卒業して、もう２０年の月日がたち、気が付いたら４０歳。この間に同級生達はどのように成長し、いかなる人生を切り開きつつあるのか、私も知りたくて、世話役を引き受けることにしました。
同窓会には、同級生１６名とその子供達合わせて２２人もの参加がありました。
当日は、同級生が今どのような生活を送っているのかを伝えやすいよう、「お久しぶりカード」という個人名刺を全員で交換し合ったり、昔の写真を集め、昔流行った曲を流しつつ、プロジェクターにて鑑賞をしました。
最初は皆、緊張している感じもありましたが、時間が経つうちにすっかり学生時代の気分に戻り、泊りがけの同窓会でも話はつきませんでした。
今度、いつ同窓会をするかは分かりませんが、同級生は「いつまでも友達」。次の機会まで元気で！そして悔いのない人生が送れるよう心から願っております。



衛生工学科 1989 年卒　竹島　寛文

●開催日時：H20.7.19(土)・20(日) 1泊2日●開催場所：ウェルサンピア立山

大学ニュース

本年度役職教員

●工学部長　川越　誠　教授
●短期大学部長　安田　郁子　教授
●学生部長　野村　俊　教授
●副学生部長　広瀬　慎一　教授
●工学部
教養教育主任教授　佐藤　幸生　教授
機械システム工学科主任教授　石塚　勝　教授
知能デザイン工学科主任教授　安達　正利　教授
情報システム工学科主任教授　松田　敏弘　教授
生物工学科主任教授　中島　範行　教授
●短期大学部
環境システム工学科主任教授　川上　智規　教授

昇　任

●教養教育
人文科学　原口　志津子　教授
●機械システム工学科
機械エネルギー工学講座　中川　慎二　教授
●知能デザイン工学科
知的インタフェース工学講座　高野　博史　講師
マイクロ・ナノシステム工学講座　岩井　学　講師
●生物工学科
応用生物プロセス学講座　牧野　祥嗣　講師
機能性食品工学講座　鎌倉　昌樹　講師

新規採用

●生物工学科
エコデザイン工学講座　川上（かわかみ）　崇（たかし）　教授
エコデザイン工学講座　木下（きのした）　貴博（たかひろ）　講師
ソフトウェア工学講座　鳥山（とりやま）　朋二（ともじ）　教授

＊中庭に中島前学長の寄付金を活用してスクエアシェルター（あずまや風の屋外休憩施設）二基設置されました。
＊田中潔先生に本学名誉教授の称号が授与されました。

退　職

平成20年3月31日をもって退職されました。
長い間お疲れ様でした。

◎田中　潔　先生
H4.10～H8.3　工学部機械システム工学科助教授
H8.4～H20.3　工学部機械システム工学科教授
H19.4～H20.3　学長補佐

◎安井　直彦　先生
H13.4～H20.3　工学部情報システム工学科教授

◎畑田　稔　先生
H10.11～H20.3　工学部情報システム工学科教授

◎行枝　亮　先生
S51.4～H4.3　富山県立技術短期大学農業機械科助教授
H2.4～H19.3　短期大学部生物資源学科助教授
H19.4～H20.3 短期大学部生物資源学科准教授
（学校教育法改正による職名変更）

平成20年3月31日をもって他大学へ移られました。
長い間ありがとうございました。

◎彭　國義　先生
H9.4～H19.3　工学部機械システム工学科助手
H19.4～H20.3 工学部機械システム工学科助教
（学校教育法改正による職名変更）
H20.4～　日本大学工学部機械工学科准教授

◎渡辺　友子　先生
H13.4～H16.3 短期大学部教養教育講師
H16.4～H19.3 短期大学部教養教育助教授
H19.4～H20.3 短期大学部教養教育准教授
（学校教育法改正による職名変更）
H20.4～　東北学院大学教養学部言語文化学科准教授

訃　報

◎宮崎　平三　先生
元富山県立技術短期大学農業機械科助教授
富山県立大学短期大学部農業技術学科農業土木専攻助教授
８月３０日に死去。７０歳。
ご冥福をお祈りします。

株式会社 中部設計
代表取締役　中瀬　壽
本社　〒930-0029　富山市本町10番2号
TEL 076-442-4161 FAX 076-441-3704

多木肥料
芝生と肥料と農薬
(株)岡本清右衛門商店
TEL　0766-24-0230
FAX　0766-24-1197

総合建設コンサルタント
信頼のおける技術で社会に貢献する
株式会社 建成コンサルタント
代表取締役会長　東原　寛
代表取締役社長　齊藤　紀男
本社　〒933-0014 富山県高岡市野村 284-1
TEL 0766(25)6097　FAX 0766(25)5697

理化学器機・産業器機　計測・試験機器
山本理化
山本文雄
〒930-0887 富山市五福二区5369
TEL: (076)432-1658 FAX: (076)432-1659
E-mail: yamamoto-rk@fancy.ocn.ne.jp



●早川俊一（技・草農業 1965 年卒）
　クイズの答えは４代目ですが。わたくしたちは、初代の谷安正さんでした。滑川市の出身です。「技には厳しく」がモットーでした。県・市町村・農協に勤務する卒業生が多いが、技術的な基本はしっかり発言して欲しいと願う。世渡り上手にその場の雰囲気や、地位が上の人に合わせる技術職員を見ると情けなく思う。会合で質問に答える農協の営農指導員の中に、恐れず堂々と正しい発言をする後輩を見ると嬉しくたのもしく感ずる。こういう人が多くなってくると国の農政もしっかり伝達される。

●坂田知詠子（技・応数 1985 卒）
　皆様の近況が「千瓢」をとおして活き活きと伝わってくるようです。最近はどうしても毎日の生活におわれているので、楽しく読ませていただいています。編集される方々、いつも大変ありがとうございます。これからもがんばってください。

富山県立大学検定クイズの答え

A1：**C.** 中尾哲雄
インテックホールデイングス会長兼社長

A2：**B.** 環境工学科

A3：**A.** ダ・ヴィンチ祭

A4：**A.** 浦野泰子（紅雨）
富山県立大谷技術短期大学応用数学科の１期生

A5：**B.** 大谷講堂
県立大学の前身富山県立大谷技術短期大学の設立に貢献された大谷家にちなみ命名された

A6：**C.** 草刈り十字軍
短期大学部教授の足立原貫さんの活動の映画化



（広告掲載企業一覧）

朝日コンサルタンツ、安全性研究センター、岡本清右衛門商店、雄川、北建コンサル、協和、建成コンサルタント、上智、新日本コンサルタント、水機工業、立山興産、中部設計、富山県農業協同組合中央会、日水コン、日特建設、山本理化

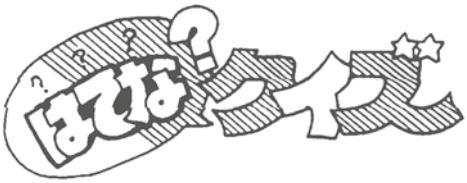
ゴルフコンペ

今年は、同窓会総会の前にゴルフコンペを開催いたします。
スタート時間が早朝で大変ですが、皆様のご参加お待ちしております。



開催日　：10月25日（土）
場　所　：太閤山カントリー
スタート：午前6時18分
参加費　：3,000円
＊プレー代は各自でお願いいたします。

参加申し込みは予約の都合もありますので、１０月１０日までにお願いします。



平成21年4月に富山県立大学に新しい学科「環境工学科」が誕生します。環境工学科が増える21年4月には工学部にはいくつの学科がありますか。
（ヒント・今号の19ページを見てください。）

◆はがきで〒939-0398富山県射水市黒河　富山県立大学内　千瓢編集部へ答えと住所・氏名を書いて応募ください。
正解者１０名に図書カード(500円)を進呈！正解者多数の場合は抽選。締め切りは11月15日(当日消印有効)。はがきに「千瓢」の感想も一緒に書いて下さい。メールでの応募もOKです。

「千瓢」第２号クイズ当選者発表 !!

＜第２号クイズ＞
平成 19 年 4 月に富山県立大学の学長なられた田中正人新学長さんは何代目の学長さんですか。

答えは、四代目　でした。

正解者は、富山市の早川俊一さん、坂田知詠子さんの２名です。おめでとうございます。

※今回は応募の方が少なく上記のお二人だけでした。多数の皆様の応募お待ちしております。



「廃棄物にロマンを」

富山県立大学短大部環境システム工学科の立田真文准教授は廃棄物の問題に取り組み奮闘中です。

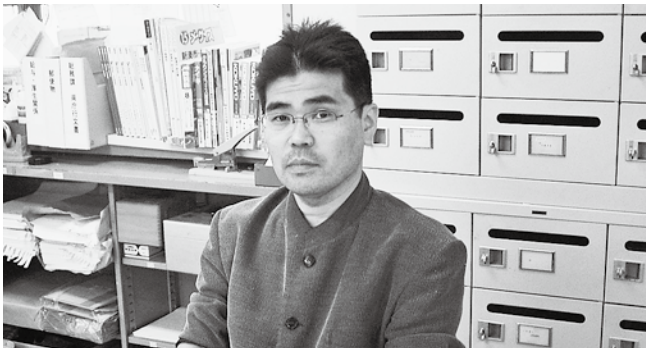
「環境問題をわかりやすく」がモットーで専門家だけでなく一般の人に関心を持ってもらう為に『ロマンティック廃棄物』(電気書院)を出版。わかりやすくするために物語り形式にしたり、イラストを多用したり一般の人が読み通せるような配慮がいたるところにあり、３６話の中には立田先生の思いがこめられている。その思いが高じてもっと多くに人に環境問題を考えてもらうために、落語に挑戦、環境創作落語を物にしようと落語の勉強から始めて、いまや“鹿鳴家(カナリヤ)くるくる”という高座名もついた。落語を通してもっと幅広い方々に環境についての認識が広がることを夢見ている。

家業が産業廃棄物処理業で、一時反発をしたこともあるが今は廃棄物に関われたことを感謝している。そうして恩返しの気持ちで研究に取り組んでいる。研究の対象は多岐に亘っているが、今は廃棄物の資源化に取り組んでいて、医療廃棄物の再利用やコンポスト・ティーによる抗菌効果の研究や土壌からの鉛の除去の研究をしている。医療廃棄物の再利用は、医療現場で廃棄される採血管を滅菌して再利用に道を開くもので業界から期待されている。コンポスト・ティーは堆肥化されたコンポストの抗菌効果を利用して農作物の病原菌等を抑える研究で、これ自身は農薬ではないがこれを使うことによって農薬の使用が少しでも抑えたいという狙いがある。土壌からの鉛の除去はクレー射撃所の近郊の鉛汚染が問題になっていて、その解決策を研究している。



立田真文先生著書
「ロマンティック廃棄物」

環境の研究には二通りの方法があり、「問題解決型」と「実態調査型」で自分は問題解決型で、問題があれば、それをどのように処理リサイクルするかを常に考えていると強調、一般的に嫌われがちな廃棄物の魅力をこれからも多くの人に伝え、＜もったいない＞の精神で廃棄物を宝の山にしたいと立田先生は八面六臂の大活躍中です。



この数字をどう読むでしょうか

5 学科

答えは、平成 21 年 4 月に開設される「環境工学科」含む、平成 21 年 4 月の工学部の学科数です。その 5 学科は機械システム工学科・知能デザイン工学科・情報システム工学科・生物工学科と新しい環境工学科です。

株式会社 日水コン
代表取締役社長 清水 慧
名古屋支所長 篠原弘則
☆上水道、下水道及び工業用水道 ☆治水、利水及び河川、湖沼、
☆建築、都市開発及び地域開発 沿岸海域に係る環境管理など に係るコンサルティング
本 社／163-1121 東京都新宿区西新宿 6-22-1 新宿スクエアタワー
☎(03)5323-6200(代)
名古屋支所／☎(052)681-3311(代)・北陸事務所／☎(076)441-8210(代)

総合建設コンサルタント
測量・設計・調査・補償
株式会社 雄川
代表取締役 雄川洋一
本社 〒939-1357 富山県砺波市小杉 213 番地
TEL 0763-33-5628 FAX 0763-33-2895
小矢部支店・富山支店・県東部支店・新川支店・高岡支店・南砺支店・射水支店

水門・橋梁・河川水消雪・ポンプ設備
ミニ発電設備・バイオ関連事業・設計・製作・施工
水機工業株式会社
代表取締役 野村幸三
〒939-8214 富山市黒崎 172
TEL (076)491-2533
FAX (076)423-3368

好きになる街、活性提案。
Nix ニックス【niks】
代表取締役社長 市森 友明
株式会社 新日本コンサルタント
総合建設コンサルタント／都市・環境総合シンクタンク
http://www.shinnihon-cst.co.jp
本 社:〒930-0142 富山市吉作 910 番地の 1
TEL:076-436-2111/FAX:076-436-2260
金沢支店/営業所:新川・中新川・射水・高岡・南砺・小矢部・新潟・福井・大阪
●建設コンサルタント ●都市・地域計画 ●上下水道計画 ●建社会資本の維持・管理 ●調査・解析 ●測量 ●情報システム開発 ●補償コンサルタント ●建築設計監理

平成20年

同窓会総会のお知らせ

日　時

平成20年10月25日（土）
総　　会：午後3時から
懇　親　会：午後4時から

会　費

男性：5,000円
女性：4,000円
※当日会場にて納入してください。

総会当日は、大学祭の期間中です。
久しぶりに懐かしい大学祭を覗いてみませんか。

大学祭についての詳細は、富山県立大学学生会のホームページをご覧ください。

http://www.pu-toyama.ac.jp/ST/top/new/

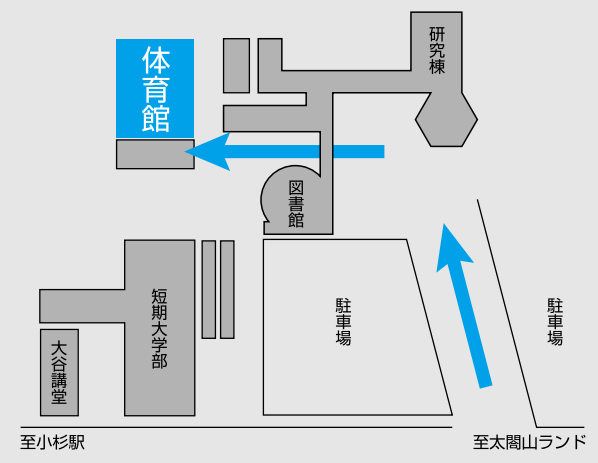
尚、懇親会には酒類もご用意しております。飲酒運転となりますので、お車でのご来場はご遠慮ください。
準備の都合もありますので、**ご出席される方は10月10日までに下記へご連絡ください。**

連絡先

富山県立大学同窓会事務局　山口
〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL　0766-56-7500（内線130）
FAX　0766-56-0396
メール　senpyokai@pu-toyama.ac.jp

開催場所

富山県立大学　体育館2階アリーナ
射水市黒河1580／TEL．0766-56-7500





編集後記

▼学長対談はどうでしたか。１００分にわたるロングインタビューでした。専門のトライボロジーやこれからの大学や同窓会について語ってもらいました。楽しい対談でした、ユーモアがあり笑いの絶えない話が続きました。そんな楽しい様子が伝わればと思っています。
▼「私の好きなもの」に登場の長島美穂さんは今年、新しくＣＤレーベル＜マイルストーンアートミュージック＞を設立し『クラヴィコードの植物文様』を発売されました。好評発売中とのことです、ＣＤショップで見つけたら手にとって見てください。
▼今年の総会は新しい試みでスタートします。学園祭と同じ日に開きます、学園祭を楽しみその後に同窓生の皆様と歓談、恩師との近況報告など楽しい時間をお過ごし下さい。特に最近卒業された方々には魅力的な内容だと思います。最近の大学の様子がわかり、講座の先生に会えるかもしれません。
▼富山県立大学検定クイズが今号から始まります。富山県立大学の雑学クイズです、あなたも挑戦してください。編集部では検定クイズの設問を募集しています。
▼今号に登場の立田真文氏は「ロマンティック廃棄物」（電気書院）という本を出版されました。ルー大柴さんが話題にしたり、養老孟司さんの推薦があったりと話題になりました。副題は「廃棄物からドラマが見える、Mottai－Naiから命が生まれる」です。やはり「Mottai－Nai」の精神ですね。
▼千瓢会と工学部同窓会が合併して出す３冊目の機関誌です。合併の効果が出てきた頃でしょうか。皆様の読後感想をお送り下さい。では次号まで（池上　勁）